

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/9/12 ～2017/9/30)

1. 勉学の状況

私の通うサラマンカ大学では、15日に留学生向けのオリエンテーションがあり、18日に私の通う翻訳・通訳学部のオリエンテーションがありました。また18日には授業が始まりましたが、この2週間は履修する科目を決めるために授業に参加してみるための期間であり、私は最初の1週間に様々な授業に顔を出してみることにしました。どの授業でも教授たちの早いスペイン語に苦しみました。ついていけなくて自信を無くしたこともありましたが、今は逆にそれがモチベーションになっています。私が取ろうと思っているのは翻訳・通訳学部の Fundamentos para la traducción 1ª Lengua extranjera: Inglés(翻訳の基礎の授業)、また取る予定だったこの学部の Lengua Española I, Traducción Directa Japonés は私の今の学力ではついていけず、Segunda Lengua Japonés はスペイン人が日本語を学ぶための授業で私は取りませんでした。代わりに日本語の先生に紹介された文献学部の Seminario de Traducción Japonés-Español (日本語からスペイン語への翻訳の授業)、Lengua Española I を取って、あと文献学部の授業をいくつか聴講してみようと思います。Seminario de Traducción Japonés-Español では日本語の文章をスペイン語に訳すのですが、どの場面ではどのスペイン語が的確か、同義語や文化の違い、表記の仕方などとても勉強になるので難しいですが頑張りたいです。また日本語の文章を理解するのは簡単でもそれをペアの人にスペイン語で説明するとなると難しく、内容は理解しているのに言語の壁で伝えられない、もどかしいという気持ちや何とか説明してもらった時の達成感など貴重な体験ができる授業でもあるので、早くスペイン語をもっと話せるようになってペアの人の手助けができればなと思います。また、日本語の知識がある私にとっては今の時点で授業中に発言できる唯一の授業でもあるのですが、勇気がなくて手を挙げて発言できなかったことが悔やまれるので、来週は一回でもいいので発言したいです。このような気持ちになったのは、スペインの学生がとても活発に発言したり、間違っても気にしない空気があったりするからです。ここの学生は少しでも気になったことがあったら指摘してその場で解決しようとしています。先日、授業中に先生が放った言葉をスペイン人の生徒を含めみんな知らず、先生が説明しても納得せず、先生は苦笑いでその言葉をネットの辞書で検索してやっと生徒たちは納得しました。いつも気を使いがちな私にはまだそんなに自分を主張するのは難しいですが、周りのいい刺激を受けながら、自分の周りの壁を少しずつ取り除いていきたいです。Lengua Española Iでは、何人かでグループを組んで発表することになっているので、言語学的な授業で難しいですが、ちゃんと授業内容を理解して学んでいけたらなと思います。翻訳・通訳学部は実践的な授業が多く、難しいけれど取りたい授業が沢山あるので、次のセメスターまでには取れるだけの実力をつけたいです。また、公立の語学学校にも週に3日のペースで通う予定です。また、翻訳・通訳学部の通訳の授業にボラン

ティアとして参加しました。非常に興味深かったのと、日々の授業では全然活躍できていない私にとっては、日本人として役に立てているという実感を得られる唯一の場所だったので、励みになりました。また、難しい文章やフレーズでもちゃんと理解している生徒がいて、すごいなと驚き、とてもいい刺激になりました。また時間があったら参加したいと思います。授業が始まってからの二週間は自己紹介をしたり、授業前に隣の子に話しかけて友達になったり、どきどきすることばかりでしたが勇気を出して話すと周りは優しく受け止めてくれることが多かったので、良い所に来たなと思いました。そろそろ本格的に授業が始まり忙しくなるので、ちゃんと予習・復習をして少しずつでも毎日前に進んでいきたいです。

2. 生活の状況

最初の一週間は時差ぼけか眠いことが多かったのですが二週目からは体が適応したのが元気に過ごせるようになりました。また出発前にひいてしまっていた風邪も完治しました。こっちは空気がとても乾燥していたり、朝晩は冷え込み昼間は暑くなるなど日本と差がありますが、去年の留学経験者の子たちのアドバイスで目薬やヒートテックを持ってきており、今もとても重宝しています。また同時に留学している子と三人部屋のピソという共同アパートに住んでいて、しばらく二人でさみしかったのですが、二週目からモロッコの子が入居して私たちはすごく喜びました。また海外からの留学生を支援するサラマンカ大学の学生団体が様々なイベントを企画してくれ、毎日新しい友達ができる二週間でした。普段はお人形のようなヨーロッパの子たちを羨む私でも、日本人だと言うとよい反応が返ってきたり、日本のアニメや漫画が好きだという子も多くて日本人でよかったなと思いました。毎週木曜日にはスペイン人と日本人との交流会があり、そこでも沢山の友達を作ることができました。お互いの言語や文化を教え合うのはとても楽しく、勉強になります。また9月の終わりと10月の初めには新入生と上級生が仲を深めるための行事があり、私も参加しました。通訳・翻訳学部の日本語専攻の学生の友達が少なかった私にとっては沢山の友達が作れるいい機会であり、上級生たちの各科目についてのアドバイスは参考になりました。日本人が多いのにも驚きましたが、日本語を勉強している学生も多く、日本語の他に中国語や韓国語をかじっている生徒も沢山います。日本のアニメや漫画、韓国のアイドルや歌が好きな学生は専攻を問わず沢山いました。母国の文化を誇らしく思うと同時に私もスペインの文化についてもっと勉強したいなという気持ちが沸いてきました。また、何か体を動かすことがしたくて大学のヨガのクラスを受けることにしました。健康に気を付けて、行動を起こすことを怖がらずに、どんな場面でも積極性をもって過ごしていきたいです。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/10/01 ～2017/10/31)

1. 勉学の状況

授業が本格的に始まってから約一か月が経ち、一週間の授業や勉強のリズムを大体掴んできました。結局、語学学校の授業が月から水の三日間、Lengua Español (スペイン語の言語学)の授業は月から木の四日間、翻訳の基礎の授業と日本語からスペイン語への翻訳の授業を週に2コマずつというスケジュールで落ち着きました。また、10月の後半から教育学部の学生が留学生向けにスペイン語の授業を開く、というプロジェクトが始まり、約三か月間、週に二日のペースでその授業にも参加することになりました。また、日本語の通訳の授業へのボランティアとしての参加も週に一度のペースでしています。授業数が多いこともあり、語学学校の宿題やスペイン語の言語学の授業の復習は特に大変で月曜から木曜日は特に忙しいです。また、スペイン語の言語学の授業は定期的にグループワークがあり、10月の初めには私のグループは各国の擬音語の違いについてのプレゼンテーションを行いました。また10月中旬にはよく使われている間違ったスペイン語についての調査結果をグループごとにレポートにまとめなければなりませんでした。早くアンケートに答えてくれたスペイン人の友達のおかげでそれも無事に提出出来ました。また、その授業の一環で *seminario* と呼ばれるディスカッションのようなものがあり、スペイン語は性差別主義か、という題について大量の資料を読まなければなりませんでした。授業は挙手制で、大勢の生徒がいるクラスの中では私は発言をすることができませんでした。授業が終わってからもスペイン人の友達たちはしばらく話し合いを続けており、そこでは私も加わって少し意見を言うことができました。日本語からスペイン語の翻訳の授業では、何回か手を挙げて発言することもできるようになりました。また、このクラスでは、授業の前と後に翻訳を提出しなければならないのですが、この間の授業では私が提出した翻訳とスペイン人の生徒が提出した翻訳を比べる形で授業が進められ、私の翻訳についての意見を聞くのはとても勉強になりました。自分の翻訳がみんなの前で読み上げられるのは恥ずかしかったです。後日スペイン人のクラスメイトがいい翻訳だったと言ってくれたので嬉しかったです。まだまだ授業についていくのは大変ですが、耳が前よりのだいぶスペイン語に慣れたのを感じているので、これからも自分のペースで頑張りたいです。

2. 生活の状況

月曜日から木曜日は授業の宿題等で忙しいですが、木曜の夜から週末にかけては友達と過ごしたり、やりきれなかった復習などをしたりと少しゆっくりできます。また、授業後にクラスメイトとカフェに行って話すのも日課になりました。まだスペイン人の友達たちの早いおしゃべりにはついていけないことも多いですが、前より少しは理解できるように

なったなと前向きにとらえています。また、前は戸惑っていたシエスタや日曜日のお店の閉店にも慣れ、買い物をする時には常にお店の開店時間を考えるようになりました。また、食事の時間も、サラマンカはスペインでも特に遅い方らしく、朝食が10時~11時、昼食が2~3時、夕食が9~10時頃で、しばらくは早めに食べていたのですが、最近は友達と食べることも多いため、こっちの時間に合わせるようになりました。木曜日の夜の日本語とスペイン語のインテルカンビオには相変わらず行っていますが、その前後で予定が入ることも多く、しばらくゆっくり話せていない友達もいるため、時間を見つけて話したいです。また、最近はアジア系の言語、特に日本語・中国語・韓国語とのインテルカンビオと認識されることも多くなり、日本人に交じって中国人や韓国人もちらほら来るようになりました。個人的には韓国人の仲の良い友達が何人かでき、近い国ではありますがパーソナリティーの違いなどを感じて興味深いです。また休日には友達の家に遊びに行くこともあり、スペイン料理と日本料理を互いに振舞い合ったり、映画を見たりと楽しく過ごしています。また、友達と集まったり、飲みに行ったりするのも楽しいですが、真面目な話が好きな友達と何時間も日本とスペインや色々なことについて話をするのも好きです。台湾人の友達が話す台湾と中国との関係や同性愛者の友達のカップルが話す馴れ初めは興味深く、スペイン人の友達たちが「イエスは男尊女卑か」「自分は自由だと感じるか」、などについて赤裸々に議論しているのも、驚くと同時に自分自身を振り返る機会にもなり、文化の違いを感じると同時に、色々なことについてちゃんと自分の意見が話せるようになりたいなと感じました。ここの学生は自分の知的好奇心に耳を傾けて、色々なことに興味や関心を持っています。日本の大学生の多くがバイトに時間を費やしている間にこっちの学生は世界に耳や目を向けて多くを学んでいるのだなと感じ、自分の意識の持ち方についても考えさせられました。まだ一か月半ですが、気持ち的にはもう半年くらいいる気がします。それでも毎日忙しい中で、日が進むのはとても早く、時間が足りないと感じることが多いです。まずは落ち着いて、計画的にやるべきことをしっかりとこなしていきたいです。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/11/01 ～2017/11/30)

1. 勉学の状況

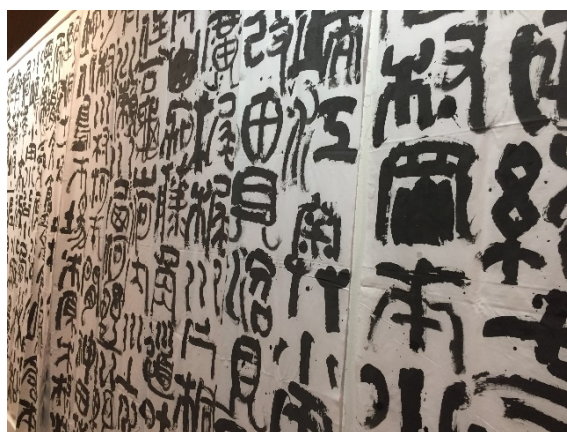
スペインに来て二か月半が経ち、時間が過ぎるのが早くなったなと感じています。授業の内容にも前よりついていけるようになり、耳の慣れや理解するスピードが速くなってきたのかなと感じています。11月は三年次論文に取り掛かり始めたことで、翻訳についてのスペイン語の文献をあさったり、日本語に訳したりするのに大幅に時間を割いてしまい、10月と比べ、あまりスペイン語の勉強に専念できなかったなという印象です。また、私はスペインの映画の日本語字幕とスペイン語原文についての論文を書いているのですが、スペインにあるだろうと高を括っていたら、DVDは見つけても日本語の字幕付きのものがなかなか見つからず大変でした。日本に住んでいたらDVDは当然のように全部日本語の吹き替えと字幕付きですが、他の国では違うというところまで気を回せなかったことを後悔すると同時に、日本語は学習者は増えていますが、世界ではやはりまだまだマイノリティーの言語なのだなと改めて感じました。スペイン語と日本語の翻訳の授業では、スペイン人のクラスメイトと集まって一緒に翻訳を考えることが多くなりました。この間の授業では日本語の漫画や小説の翻訳に取り組みました。点やカッコの使い方など、日本語とは違うところが沢山あって興味深かったです。授業の予習や課題、三年次論文に追われてスペイン語の勉強があまり進まず、少し気落ちしていたのですが、2、3週間ぶりくらいに会った友達に前よりもスペイン語が話せるようになってると言われ、自分では気づかないうちに友達との交流や授業の中で自然に話す力も前よりついていたのかなと感じ、励みになりました。またボランティアとして参加しているスペイン語と日本語の通訳の授業も週に一回のペースでの参加を続けており、日本語のスピーチをする際、英語の原稿も渡され、できればその一部を英語で話してほしいと頼まれました。スペインに来てから全く話していなかった私にとっては、少し勇気のいることではありましたが、話し終わった後久しぶりに達成感を感じ、勇気が必要なことに敢えて挑戦することはやはり大切なことなのだと感じました。12月、1月とテストや課題に追われる日々が続くと思いますが、その中でも友だちとの交流やスペイン語の勉強など時間を見つけて継続していきたいです。また、ここでは授業、お店、友達との交流の場面など、日常の些細な場面でも自分に挑戦する機会が見つかります。勇気が必要なことは何かと避けて楽な道を選んでしまいがちですが、12月は小さいことでもいいので敢えてそれに立ち向かっていくような姿勢で臨みたいです。

2. 生活の状況

沢山の友達と知り合ってから少し経ち、だんだんと交流も深まってきたように感じます。

友達の家に泊まって詩をいくつか教えてもらったり、朝ご飯にチュロスを食べに行ったり、この間は友達の実家に泊めてもらい、ウサギの肉を初めて食べました。話で聞いていた時は少し抵抗があったのですが、鶏肉のようで美味しかったです。またご家族もとても温かく、愛情深い素敵な人たちでした。また、その子のいところが6歳の息子連れて遊びに来ると聞いて、人懐っこく距離の近いスペイン人の友達たちを思い浮かべてどんな子が来るんだろうと若干身構えていたら、挨拶の時もキスができない、とてもシャイな男の子が来て、少しびっくりしました。私が今まで知り合ったスペイン人たちは控えめな性格の人でも例外なくキスの挨拶をする距離の近い文化に住んでいます、みんながみんな初めからそのような人柄なわけではなく、成長して色々なことを経験するにつれて文化を学んでいくのだなと感じ興味深かったです。確かに私も年上の人に敬語を使い始めたのは小学校高学年か中学生の時だったように思います。ひとつのコミュニティの中にいるとそこでの決まりごとが当たり前のように感じます。小学生の時には抵抗のあった敬語も今ではまるで生まれた時からそうだったかのように当たり前に使っています。それがコミュニティに順応することなのだなと思うと同時に、それを改めて感じられることも他のコミュニティに飛び込む醍醐味なのかなと感じました。

また11月の中旬から約1か月間、スペイン・日本交流会館で有名な書道家による書道の作品が展示されるというのを聞き、初めて足を運びました。日本語の書籍がたくさん置いてある図書館がありびっくりしました。久しぶりに日本の文化に触れてそれについて友達と色々なことを話せて楽しかったです。12月は様々なイベントや連休もあるので、あまり時間を作れなかった11月の分まで、友達と交流を深められたらいいなと思います。



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/12/01 ～2017/12/31)

1. 勉学の状況

12月上旬には連休があり、後半は冬休みに突入したので他の月と比べると授業が少なく、友達と比較的沢山の時間を過ごせました。言語学の授業では、1月末のテストに向けて練習問題の解説の時間が増えました。また、今月の seminario (討論会) では、議題のスペイン語の英語的用法、英語化について話し合いました。「スペイン語はラテンアメリカの言語か」という質問に対して、違うと答えるメキシコ人がいたり、そうだと答えるスペイン人がいたりして、とても興味深い議題でした。ラテンアメリカについてはスペイン人の中でも様々な考え方の人がいて、日本のアニメなども、圧倒的にラテンアメリカの吹き替えの方が多かったです。それがいやだという人もいれば、そのおかげでスペインではアニメへの関心が深まったと肯定的にとらえている人もいます。また、スペインに来てから、日常的に自然に生徒が英語のフレーズを言っているのを耳にすることがよくありましたが、実際にアメリカに近いラテンアメリカは英語に多大な影響を受けており、それに乗じてスペインのスペイン語でも英語の単語や英語から来た単語が増えているようです。また教育学部の生徒が留学生にスペイン語を教える授業では、接続法という一番複雑な文法に入り、分かりやすい説明で理解を深めることができました。また、スペインに関するクイズなどをして、後期はもっとスペインの文化についての理解や関心を深めたいなと思いました。また翻訳の授業では日本語の小説の一部をスペイン語に翻訳しました。スペイン語の小説は書き方やセリフの入れ方が日本語とは違うので面白いなと思いました。三年次論文も12月上旬には一段落し、先生とメールでやり取りをして添削作業を進めています。またそれに伴って、友達と会ってスペイン語を勉強する時間が増えました。モチベーションを保つ上でも、友達と交流するのは大切だなと改めて実感しました。1月には提出物やテストなどが増え、みんな忙しくなる時期だと思うので、私もテスト勉強やスペイン語の勉強に専念したいなと思います。

2. 生活の状況

スペインに来てから3カ月半が経ち、時間が経つのがより早くなったなと感じています。12月に入ってからイルミネーションが点灯し始め、町中が一気にクリスマスモードになりました。お店にはクリスマスソングが流れ、宝くじを買う列をよく見かけるようになり、中旬には広場に大きなプレゼントのイルミネーションが設置され、一気に華やぎました。また、学部棟の近くにはクリスマスのために沢山の屋台が並び、チュロスやクリスマスの飾りなどを売っています。スペインではクリスマス特有のお菓子がいくつかあり、私は中でもトゥロンというお菓子が好きで、お米やチョコレート、ナッツなど沢山の種類があります。年末年始より、クリスマスに家族で過ごす方が当たり前というスペインでは、宗教

的にもその他の面でもクリスマスは最も重要な行事の一つであるのだなということがよくわかりました。デパートにはスケートリンクが設置され、友達とスケートをしに行きました。サラマンカでは、気温は下がるもののなかなか雪が降らないというのを耳にしたので、このような冬のスポーツができで嬉しいなと思いました。ただ、氷を整備しないのかガタガタで、日本のなめらかなスケートリンクを想像していた私は少しがっかりしました。11月ごろから急に下がった気温にも慣れてきて、家の中ではあまり暖房は付けられない代わりに湯たんぽを買って多用しています。また12月の初めから、去年留学していた同じ学科の先輩が論文を終えてサラマンカに滞在しており、お互いの友達を誘って食事などをし交流を深めることができるととても嬉しいです。3か月経ち、前よりも友達の会話が理解できるようになったのと関係が深まったせいか、友達とも前よりも深い話をする機会が増えるようになったなと感じます。もともとスペイン人の人生観に深い関心のあった私には、そのような話はとても興味深く、社会が何を「常識」とするかはやはり日本とはかなり開きがあっても、個人としての意見は私と似ている人が多かったり、体験や経験によって考え方が人それぞれなのでとても面白いなと思いました。しかしまだまだ完全に理解できるようにはなっていないので、たまに話についていけなかったり、自分の意見を言うときにも複雑なことだとうまく伝えられないことがあったりと、やはり言語の壁による障害はまだあるので少しでも取り除けるように勉強を続けていきたいです。また、12月15日は大学生向けの大晦日で、学生町であるサラマンカには近隣の街から沢山の学生が夜を過ごすために来ました。広場ではコンサートが行われ、赤い帽子を被った人々で溢れかえり、どこの場所も沢山の若者たちでいっぱいでした。また、スペインでは大晦日には12回の鐘の音に合わせて12個のブドウを食べる文化があり、私は友達の家に集まってブドウの代わりに丸いグミのようなお菓子を食べました。友達がどこのお店でも売り切れでやっと一袋買えたと言っていたので、そのお菓子をブドウの代わりに食べることもよくある事なのだなと思いました。また、ココというメキシコの死者の日についてのアニメの映画を友達と見に行きました。おそらくメキシコのスペイン語のままで、字幕はだったのですが、映像なども手伝って大体理解することができました。ラテンアメリカの友達と後日映画について少し話ができただのも嬉しかったです。文化は知れば知るほど深くて、まだまだ分からないこともあります。このように友達に話を聞いたり行事を共有することによって沢山のことを学ぶことができるので、このような交流も大切にしていきたいです。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/01/01 ～2017/01/31)

1. 勉学の状況

1月は前期の最後の月であり、テスト期間でした。スペインではテスト期間は授業がなくなることが多らしく、図書館やその周りは常に生徒達で賑わっていました。日本ではテストギリギリまで授業があったりバイトなどがあったりしますが、このような時間が必要なときに思う存分勉強に集中できるような環境はとても良いなと思いました。日本語からスペイン語への翻訳のテストと言語学のテストの他、3年次論文の仕上げやスペイン語でのレポートの課題などもこなさなければなりませんでしたが、私も1月はほとんどクラスはなく、語学学校の授業以外や課題の時間以外をテスト勉強に回すことができました。中でも心配だったのが言語学のテストで、応用型のテストだったため一番時間を費やしました。幸い先生が復習の授業を設けて下さったり、仲のいいクラスメートと集まって勉強をし教えてもらうことができたため何とか理解することができました。最初は全部スペイン語でしようと意気込んでいたのですが、一つの考えを他の考えに発展させるような複雑な思考を必要とする問題はスペイン語でやろうとすると物凄く労力を使うことや頭の中で発展させてもすぐに忘れてしまうことに気づきました。複雑な思考のための言語は幼いころにできあがってその後も変わらない、という話を思い出しました。言語があるからこそ人は複雑な思考が持てるとよく言われますが、本当にその通りなのだなと感じました。そのため、複雑な部分やどうしても理解できない部分は一度日本語で理解してからスペイン語にしなければなりませんでした。日本語からスペイン語への翻訳のテストでは、今まで授業で扱った文章を翻訳する第一部と、新しいテキストを翻訳する第二部に分かれていました。第二部に関しては不安でしたが、自分なりに考えて手ごたえを感じることができたので、これまでの授業でやっていた翻訳の課題のお陰だなと思いました。またスペイン語のレポートの課題では、完璧なスペイン語で提出することが条件となっていたため、添削してくれるスペイン人を捜したいのですが、前期に私が日本語のボランティアとして参加していた通訳の授業の先生が引き受けて下さり、丁寧に添削してくださいました。後期は通訳の授業はないそうですが、何か必要ならお手伝いして少しでも恩返しができたらなと思います。

2. 生活の状況

約2週間のクリスマス休みが終わり、留学も残り約半分になりました。これまでを振り返ると長く感じますが、11月、12月、1月と後半は本当に早く過ぎていったなと感じているので、残りの半分もあつという間かもしれませんが少しでも多くのことを経験して充実したものにできるよう頑張りたいです。4か月以上が経ったからか、テスト期間で家にいることが多かったからか、1月はルームメイトと仲を深められた月だったなと思います。夕食を一緒に食べてからおしゃべりする時間は楽しく、テスト期間で友達と会えなくてもルームメイトと話せたためあまり寂しくはありませんでした。ルームメイトの一人は看護と経済学部の過程を同時に受けているようで、12月から沢山のテストに追われていました。自分がテストを受ける身になって初めて母国語以外の言語でいくつものテストをこなす大変さがよく分かり、改めてすごいなと思いました。スペイン人の友達の多くはお正月を実家で過ごし、その後も実家でゆっくりする人が多かったため、会えるや否やテスト期間で勉強、という感じでした。しかし図書館で集まって勉強してから友達の家で夕食を食べに行ったり、友達の家で勉強してそのまま泊まったりするなど、テスト期間中も一緒にいてくれた友達には感謝しています。また去年留学していた先輩が12月からサラマンカに来ていたため、集まりに誘ってもらったりおすすめのバルを教えてもらったりと、楽しい時間を過ごすことができ、尊敬する先輩のスペイン語を間近で聞けてとても良い刺激になりました。私は友達と交流する時、会話の流れなどに重点を置きがちで、知らない単語が出て文脈で理解できれば流してしまうことが多いのですが、先輩の交流の仕方を見て、積極的に学びに行こうとする姿勢の大切さを感じたので、私も見習おうと思いました。また私や周りの友達のテスト勉強が一段落したタイミングで、仲のいい友達の誕生日パーティーをうちで行い、ホットプレートがあったのでお好み焼きを作りました。これまで招待される側になることが多かったのですが、主催者側に回ってみて、その大変さがよくわかりました。サプライズを仕掛けていたことや人数が多かったこと、不手際もあり終始準備や片づけに追われているような状態で、終盤でやっと落ち着いたような感じでした。これから誰かのパーティーに行く場合にはもっと主催者の人に感謝して手伝い、少しでも負担を軽くしたいです。またこの時期は半年留学の学生や去年から来ていた日本人の友達など、お別れをすることも多くなります。自分も半年後にはお別れされる側になることはまだあまり想像できませんが、時間に限りがあることは念頭に置いておきたいです。後期は比較的時間を置かずすぐに本格的に授業が始まるようなので混乱などしないようにちゃんと確認し準備したいと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/02/01 ～2017/02/28)

1. 勉学の状況

前期のテストを終え、後期が始まりました。テストに関しては、不安もありましたが、友達の助けのお陰で、前期にとっていた三つの授業の単位を無事取ることができました。後期の授業は、この五か月の反省や経験を踏まえて決めました。前期に言語学の授業を取り、スペインの言語学に興味を持ったため、後期も一つ翻訳・通訳学部の言語学の授業を取ることにしました。スペイン人向けの授業であるため、内容的には難しいですがしっかり予習復習をしっかりとついでいけるようにしたいです。また、この五か月の間に日本の政治について聞かれることがよくあったのですが、語彙力の問題や私自身が日本の政治について把握不足だったためうまく説明することができず、悔しい思いをしました。そこで後期には、文献学部の三年生向けのアジアの政治・政府という授業を取ることにしました。この授業も内容的に重く政治の専門用語の勉強不足の問題が常に付きまとうので、しっかり勉強して先生の話を理解できるようにしたいです。またスペインの文化や世界史についての知識不足もよく痛感したため、古代の伝統という授業を受けることにしました。この授業は夜の7時から9時という遅い時間帯であるため授業中は疲れていることが多いですが集中できるようにしたいです。また前期にとっていた日本語からスペイン語への翻訳の授業が大変興味深かったため、後期も同じ先生の翻訳の授業を聴講することにしました。前期には難しいと言われて諦めた翻訳・通訳学部の三年生向けの授業だったため、聴講を認めてもらえた時は嬉しかったです。またこの授業は少人数体制で日本人としての意見を求められることも多いため、比較的沢山発言することができます。また前期にもあった教育学部の生徒によるプロジェクトが今期もあったため、その授業も受けることにしました。また、前期の間は語学学校に行っていましたが、大人数体制で今までの文法の復習になってしまっていたことも多かったため、後期は語学学校には行かず、大学の授業の予習復習や課題に力を入れ、教育学部のプロジェクトの授業でスペイン語の文法の復習をし、スペイン人の友達と積極的に会って話や勉強会をして、自分のレベルに合わせて勉強していこうと思います。

2. 生活の状況

二月で大きく変わったことは引っ越しをしたことです。前の家やルームメイトにも満足していましたが、それよりもスペイン人や他の人と住んでみたいという好奇心が強かったため新しいルームメイトを募集している留学生に連絡を取りそこに住むことを決めました。新しいルームメイトはスペイン人二人です。幼馴染らしくとても仲が良く、よくリビング

でゲームをしています。最初は少し不安でしたが、スペイン人らしい開いた彼らの性格のお陰で今では仲良くなりました。また彼らの友達と知り合ったり、お互いに料理を作り合ったりと新しいことが増え新鮮な気持ちです。またテストが終わってみんな自由な時間が増え、友達の家が集まったり、バルへ飲みに行ったりすることも増えました。また今までアジア人や留学生が集う場所に遊びに行っていたのですが、最近はルームメイトと一緒に出掛けてスペイン人が集まるバルやディスコテカに行くことも増えました。今まで知らなかった場所や人々を見て、五か月経つけれどまだまだ自分の知らないサラマンカの顔が沢山あるのだなと感じています。また彼らは南部出身なため二人で話すときは訛りが強くまた速度も速いためなかなか聞き取ることが難しいですが日本に変えるまでには聞き取れるようになりたいです。また中旬にはアヴィラという電車で一時間くらいの街へ観光に行きました。有り難いことにアヴィラ出身の子が同行してくれ案内をしてくれました。チュレトンというアヴィラの名物のステーキを食べたり、教会や城壁を見に行ったりと充実した時間を過ごすことができました。ステーキは 800 グラムもあり、友達と分け合って何とか完食しました。またバレンタインの日には友達の家を集まって友達の作ったスペイン料理を食べました。私も抹茶のチョコレートなどを作って持っていきました。スペインではバレンタインデーは日本ほど重要ではなく、カップルでも祝わないことがあるようで、日本のような友チョコや義理チョコは存在しないようです。スペインは情熱の国ともいわれるくらい愛情に溢れた国でありみんなお祭り大好きなためこれは意外でした。逆にチョコを貰えなかった男の子や独り身の若者たちが風刺的な投稿をしたり、「灰の日」などと形容したりすることの方が多いうで面白いなと思いました。また翌日にはチョコで有名なお店にチュロスを食べに行きました。バレンタインの翌日だからか賑わっていました。折り返し地点を過ぎ、深い関係を維持したり慣れた習慣などがある一方、授業や引っ越しなどにより新しいことも増えました。履修した授業は前期よりも重いですが語学学校がない分時間に余裕が生まれ自由な時間が増えました。前期のバタバタしていて右も左も分からなかった時との差を感じています。その分自由な時間をしっかり有効活用して残りの半分を大切に過ごしたいです。



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/03/01 ～2017/03/31)

1. 勉学の状況

留学生活も残り 3 か月となり、最近では時間のリミットを感じては寂しくなります。後期の授業も二か月経ち、慣れてきました。言語学の授業は週二回あり、月曜日は理論、水曜日は実践的な内容、という構成になっています。また週末には実践的な内容の課題が出るので、理論の復習をして実践の授業に臨み、週末の課題をする、というサイクルができました。ただ、今月は他の授業の課題も重いものが多く、アジアの政治の授業では日本の政治についてのレポート10ページ、また伝統の授業ではローマ帝国の王などの伝記を読みそれについてまとめや自分の意見を書かなければなりません。本が分厚く膨大だったこと、難しい語彙が沢山出てきたので、レポート自体は短いものですが読むのと理解するのに苦戦し大幅に時間を割きました。また日本語からスペイン語への翻訳の授業では少人数体制の為比較的沢山の発言をすることができ、質問をしたりすることもあれば日本人として単語の意味やニュアンスの説明を求められることも多いです。他の日本人のクラスメイトと意見が食い違うことや、何となくのニュアンスで使っている語などは自分でもあまりはつきりとは意味が分からなかったりして、日本語は曖昧なニュアンスのものが多いなと感じました。また、教育学部の生徒によるスペイン語の授業も本格的に始まり、比較的高いレベルのクラスに振り分けられたため、クラスメイトもみんな積極的に発言して沢山話すことができ、また便利な言葉や複雑な文法を練習することができてとてもためになっています。先生の一人はイタリア人で、交換留学をしてサラマンカが気に入り、スペイン語教師になるための勉強をするために戻ってきたそうです。言われるまでスペイン人だと思っていたくらい、ネイティブと変わりなくスペイン語を話していて、すごいなと感じました。また三月の終わりには言語学のテストがありました。理論と実践的な内容のものふたつで、実践的な内容に関しては理解して応用すればいいので比較的身につけていたのですが、理論の方は語彙や説明などをスペイン語で書けるようにしなければならなかったので勉強に追われました。ただ想定していた一問一答のようなテストとは違い、200字で説明しなさい、というような内容の問題だったので最初は焦りましたが時間をギリギリまで使って何とか思い出しながら書きました。また言語学の授業は春休み後には教授が変わるらしいので気持ち新たにしていけるよう頑張りたいです。

2. 生活の状況

今月は課題に追われていたこともあり比較的家で過ごすことが多かったため、ルームメ

イトたちとの交流が深まりました。ピソのWi-Fiが弱いせいで私の部屋まで十分に届かず、他のルームメイトも同じ状況なのか基本的にみんなでリビングに集まって課題をしたりくつろいだりする感じでした。またルームメイトの一人が料理が上手く、私がみんなの分何かを作って次の日はその人がみんなの分を作って、というようなシステムができあがりしました。また一緒に餃子を作ったり、別な子の家に行ってみんなで寿司を作ったり、逆にカルボナーラの作り方を教えてもらったりと食べ物を中心に仲を深められました。またバルに飲みに行ったり一緒に出掛けたりすることも増えました。一緒に住めるのも残り三か月と短いですが、大切に過ごしたです。また、最近では日本人とスペイン人の集まりよりも中国人や台湾人とスペイン人の集まりに参加することが多く、中国人で仲のいい友達もできました。家で何か中華料理や日本料理を作る際には呼び合ってパーティーをすることも多いです。また三月上旬には翻訳学部の記念日があり、その週は一週間お祭りがありました。木曜日には仮装パーティーがあり、私も友達と仮装して参加しました。また三月の半ばにはヴァレンシアで火のお祭りがあり、エラスムスの団体が主催する旅行に初めて参加して泊りがけで行きました。スペイン人はもちろんヨーロッパを中心とする様々な国の子と友達になれて参加してよかったなと感じました。ヴァレンシアではお祭りのために様々なコンセプトの巨大なオブジェが建てられ、若者や子供たちが爆竹をいたるところで破裂させていました。私は突然の爆破音にはなかなか慣れず終始悲鳴を上げていました。また夜には橋の上で花火を見ました。日本のものほど盛大ではありませんでしたが、日本ではあまり見ないデザインのものや色のものがあって綺麗でした。またヴァレンシアはパエリアが有名なため、旅行の企画の一部で巨大なパエリアを食べました。夜は野外で音楽がかかりみんなで4時まで飲んで踊ってバスに乗ってホテルへ帰りました。次の日の朝には友達と近くのお店にチュロスを食べに行き、真っ青な海を眺めながら散歩した後、砂浜でビーチバレーをしました。またヴァレンシアの芸術と科学の街と呼ばれるところへ行きました。様々な近代的な建物が沢山あり、スペインにもこのようなところがあったのかとびっくりしました。まだまだスペイン国内でもいったことのない街が沢山あるので四月は積極的に旅行したいなと思います。これから一週間ほどの短い春休みに入り、それが終わると四月で日本では私はもう四年生になります。残り三か月はきっとあっという間に過ぎてしまうと思いますが、悔いの残らぬよう沢山友達と交流して沢山スペイン語を学びたいと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/04/01 ～2018/04/30)

1. 勉学の状況

留学生活も残り3か月となりました。約2週間の春休みが終わり、後期後半に入り、留学もいよいよ終わってしまうのか、という思いが常に頭をついて回るようになりました。後期にとった授業の一つである言語学の授業は後半から先生が変わり、前半の先生の授業も好きだったので少し残念ですが、また新たな気持ちで授業に望んでいます。クラスで唯一のアジア人である私は一目で留学生だと分かるため、名前をすぐに覚えてもらったり、日本のことについて聞かれたりすることもちょうちよくあります。アジアの政治についての授業では、タイや中国についての政治について学び、タイで二週間の留学プログラムをした経験のある私にとっては興味深いものでした。5月にはタイの政治についてのレポートを提出しなければならないので、自分でももっと積極的に調べて知識を深めたいと思います。まだまだ政治の専門用語などにより理解が難しい時もありますが、前よりもだいぶ理解できるようになった実感があり、それだけでこの授業を取った甲斐があったかなと思います。

ローマやギリシャ文化についての授業では、四月の終わりに詩についての講演会があり、教授を含むスペインの古代文化や詩の研究の第一人者である三人の講演者の方々のお話を聞きました。時間と詩の関係についての話や詩とは何か、など興味深い話が多く、また最後にはそれぞれの先生が自分の書いた詩や気に入った詩などを朗読しました。

日本語からスペイン語の翻訳の授業では恋する女の子の気持ちを描いたコメディークな文章を訳し、カジュアルで独特な表現が多かったため難しかったですがその分面白く、スペイン語と日本語の表現の仕方の違いについて学ぶことができました。

また教育学部の生徒が留学生にスペイン語を教える授業では、マドリードの政治家の履歴偽造スキャンダルに乗じ、言い訳や弁明などをそれぞれ考え、謝罪会見をしました。それぞれ思い思いの言い訳や感情を載せて弁解する様子は面白かったです。また別な日には留学生のラジオ番組という設定で留学するにあたってのアドバイスやそれぞれの考えなどを話し、最後にそれぞれのテーマに合った歌を紹介し合いました。両方とも面白い企画で楽しい授業だったので四月でこの授業が終わってしまうのがとても残念です。

五月には本格的にテスト勉強や課題をする期間に入りとても忙しくなりますが、スペイン語の勉強も合間を見て続けていけたらいいなと思います。

2. 生活の状況

最初の一週間は春休みで私はイタリアへ旅行しました。ルームメイトの一人が去年ナポリに留学していたため、おすすめの場所や食べ物などを聞いて楽しみました。旅行の間はイタリア語を少し勉強し、スペイン語とよく似ているためある程度理解できるもののいざ勉強してみるとやはり違う部分も多いなと感じました。春休みが明けると早々に様々な場所でパーティーが開かれ、休み明けの再開を喜び春休みの話に花が咲きました。寒さが和らいで春に入ったかと思ったら急に日がぐんと長くなり暑さが厳しくなりました。急な温度変化に体がついていけなかったのか中旬には軽い熱中症になってしまい一日中ベッドで寝ている状態でした。幸い翌日には回復しましたが、まだまだこれから暑くなるので水分補給をしっかりとって本格的な夏に備えたいと思います。またその翌週には友達とサラマンカの近くの小さな村に小旅行をしに行きました。サラマンカとは少し雰囲気の違い、山に囲まれた緑豊かなどかな村で景色がとても綺麗でした。夜には友達と料理をして外にレジャーシートを敷き、ピクニックをしました。寒さが和らぎ晴れの日が続いてピクニック日和なのでサラマンカでも友達とピクニックができればいいなと思います。また最近中国人の子と仲良くなりよく一緒にいるのですが、アジア人が固まっているとそれだけで白い眼を向けられたり、もともと中国人へのあたりは他のアジア人よりも強かったりするのでそれを肌で感じて考えさせられたりすることも多いです。逆に日本人が嫌いだと言ってくる人に会うときもあり、日本人と一緒にいるときはそのようなことはまず言われないのでそれも新鮮に感じました。そのような環境の中で、前まではアイデンティティーとしてはまず「日本人」でしたが、最近は「アジア人」としてのアイデンティティーが自分の中で強くなってきたなと感じました。一度も言ったことがないのに同じアジアとして中国や韓国も自分の国の一部のように感じるのはなんだか不思議な感じです。長い留學生活の中で徐々に膨らんできた気持ちや感化された出来事を通して突然芽生えた気持ち、何回か変化を経た気持ちなど、時間を見つけて振り返り、この10か月の留學生活の終わりを実感と共に迎えられるよう、沢山学んで友達と大切な時間を過ごす、悔いのない二か月にしたいと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/05/01 ～2018/05/31)

1. 勉学の状況

10か月の留学生活も残りわずかとなり、寂しさも増してくる頃ですが、そんなことも言っていられないテスト期間に入りました。授業は大体が5月中旬で終わり、そこからテストに向けて集中的に勉強するシーズンに入ります

ローマやギリシャ文化についての授業では当初評価に含まれていたテストがなくなり、3つのレポートに重きが置かれることになり、5月中にはそのうちの2つ目を終わらせました。内容としては先生が挙げた本の中から自分の興味のあるものを1つ選んでそれについてのレポートを書くのですが、私は“Heracles”というギリシャ文化の中でのホモセクシュアルについての本を選びそれについてまとめました。授業で古代の文化の中でのホモセクシュアリスモやエロスについて話を聞き興味深かったというのがありますが、色々な国から様々な考えの人が集まっているサラマンカでは友達を通して同性愛について考えさせられ、自分の中になじみある物として定着するようになったのと同時に興味関心の対象にもなっていたので、ギリシャ文化だけではなく、現代の同性愛を持つ人々にも当てはまるような理論の展開は面白かったです。

アジアの政治についての授業では5月の終わりにテストがあり、膨大な範囲に苦しみました。特にこの授業のテスト勉強の際には図書館に通っていたのですが、この時期になると図書館はいつも人で溢れており、長らく会えていなかった友達に偶然会えたりするのも楽しみの一つでした。テストは論述式で、台湾の政治の仕組みについて、また日本と韓国の政治の比較などに関する問題が出ました。テスト前日は部屋の電気が消えるアクシデントにより、リビングでルームメイト達がゲームをしている横で一人勉強に追われるはめになりました。

言語学の授業でも5月の終わりにテストがあり、先生が事前に挙げていた文書を読んでそれについての自分の意見を記述するものと、一つのドキュメントを分析するものの二つでした。分析するものは課題では法廷医の提出した被告人の診断結果のカルタなど難しいものも扱ったので心配していたのですが、テストではトマトとひき肉のマカロニのレシピという至って語彙や理解が簡単なものだったので安心しました。

テストでは紙の辞書の持ち込みはほとんどの場合 OK なのですが、テストの時間は限られているので調べる時間を取るの難しく、また電子辞書の使用は許可されていない場合が多いので、論述式のテストでは語彙も心配していたのですが、授業や課題、テスト勉強等で自然に身につけていたものもあり、自分の書きたいことを問題なく書くことができ満足しています。日本に比べスペインでは論述形式のテストが多いという事実や問題の傾向

を前期のテストで知ったので、テスト勉強も主に論述対策を中心にしていました。個人的に知識を問うテストよりも、スペインのように知識を応用して論述するタイプのテストの方が面白くて好きだなと思いました。

2. 生活の状況

3月の猛暑の時には5月はどれだけ熱くなるのだろうと心配していたのですが、今年は特殊な気候のようで冬に戻ったように寒くなる時や突然雨が降り出す時が多く、現地の学生も驚いていました。テスト期間に入る前に遊ぼうという傾向があるのか5月上旬はテストが近いにも関わらず割とみんな外へ出ていたような印象があります。しかしテスト期間に入るとみんな図書館か家で黙々と勉強し、週末も勉強に追われている友達が多かったかなと思います。勉強終わりやテスト終わりにだれかと食事をしに行ったりバルに飲みに行ったりするのも楽しみの一つで、授業がない分自分で勉強する時間と友達と会う時間をお互いに調節してコントロールできるのも良かったです。また、ヨーロッパでは毎年エウロビッションというヨーロッパの各国が代表を選出して競う歌のコンテストがあるということで、友達と集まってテレビを見ました。前年度の優勝国で開催されるらしく、今年はポルトガルで行われました。コンテストの存在自体初耳だったのですが、ヨーロッパでは年に一度の大きなイベントのようでSNSでもみんな沢山意見をシェアしていて面白かったです。優勝国は招待されたイスラエルで、パンチのある歌だったので賛否両論あり、それを話し合うのも楽しかったです。ちなみにスペインは過去に優勝経験はあるものの毎年結果が思わしくないようで、スペイン国内ではみんな期待を持っているというよりはそれについてのジョークを言い合う方が多いと聞きました。五月中旬には日本から有名な俳優が映画撮影にサラマンカに来るという情報が日本人や日本語を勉強している学生の間でもちきりになり、夜にみんな集まってサラマンカの街に彼を捜しに行きました。最終的にインスタグラムの投稿から居場所を突き止めてみんなで行き写真を撮ってもらいました。実際に会えたのも満足でしたが何よりみんなであちこち探しまわったのが楽しかったです。また5月はテストで忙しいスペイン人に代わって他国から来た留学生との交流も多く、新しい友達も増えました。留学生の友達は期間が短かったりするので入れ替わりが激しいですがみんな思い思いに留学生活を楽しんでいて刺激を受けることも多いです。また5月の終わりは私の誕生日でその日が最後のテストだったということもあり、沢山の友達を招待して大規模な誕生日パーティーをしました。テストが控えていて来られない友達も多かったのが残念でしたが久しぶりに会えた友達も多く嬉しかったです。10か月の留学生活も残り一か月となり、未だ実感はわかりませんが不思議と前よりも寂しくはありません。六月はテスト終わりでみんなと過ごせる時間が増えると同時にそれが最後にもなります。友達を見送ることも増えさみさが募ることになると思いますが前よりも絆の深さを感じ、必ずまた会えると思えます。今までの出会いと素晴らしい思い出をくれた友達に少しでも恩返しができるように、最後の時間を充実させていきたいです。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/06/01 ～2018/06/30)

1. 勉学の状況

テストは5月でほとんど終わり6月はレポートに集中的に取り組みました。ギリシャ・ローマ文化の授業では授業に関連した自由な題で 3000 ワードのレポートを書くという課題が出ていたのである映画についてのレポートを書きました。ギリシャ・ローマ文化にも関連しており、授業でも取り扱ったホモセクシュアルが主なテーマとなっている作品で、スペインでは少し前に公開されましたが、日本でも最近公開された作品でこの授業やスペインでの生活や出会いを通してホモセクシュアルの人々の生き方に関心を持った私にとってはとても興味深い作品だったので分析も面白かったです。またテストが終わってある程度自由になった友達とインテルカンビオを再開してスペイン語と日本語をお互いに教え合いました。スペインに着いたばかりの頃にはうまくスペイン語で説明できないもどかしさをとても感じましたが10か月スペインで生活した今はそのもどかしさもだいぶ減り会話を楽しめるようになった自分がいて、まだまだ語彙等課題も残っていますが、できることはやり切ったかなという達成感が残っています。特に実感があるのがリスニングの向上で、最初はだいぶ聞こえづっていた南部の訛りも、南部のスペイン人のルームメイトと生活する中でだいぶ聞き取れるようになりました。いつも私をスペイン人と同じように扱ってくれた彼らには感謝しています。また日本語の授業のテストを落とした何人かの友達に頼まれて日本語のテスト勉強を一緒にしました。日本語の微妙なニュアンスの違いなどを教えるのは今でも難しいですがこれについても前より説明できるようになった実感があったので嬉しかったです。

2. 生活の状況

いよいよ残すところあと一か月になり、テストも終わって6月は特に積極的に友達と集まっていました。7月の初めにスペインを発つ私にとっては6月の後半から一人、また一人と次々自分の街や国へ帰っていく友達を見送るのはとてもつらく、お別れの度にバスを見送りに行っては泣いていました。改めてこの一年の留学生活がどんなに人や出会いに恵まれていたかを実感し、この繋がりを日本へ帰ってから大切にしたいと思いました。スペイン人の強めな個性や性格と衝突する時もありましたが、それでもスペインの文化や考え方は私に大きな影響を与え、価値観や人生観も大きく変わりました。特に私が好きなのは失敗などに関する考え方で、スペイン人の友達の「一回失敗したらビールを一杯飲んで忘れる。もう一回失敗したら、もう一杯ビールを飲む」という言葉を今でも覚えています。

自分の過ちを素直に受け止めて繰り返さないことも確かに大切ですが、失敗を恐れず、そんなに重大にとらえず生きるスペイン人の姿勢も人生を充実させるためには大切なのではないかなと思います。またスペインの文化で欠かせないのがサッカーですが、6月は運のいいことにワールドカップが始まり多くのバルでは外にもテレビを設置して試合の度に沢山の人が集まって叫んで応援していました。前からサッカーには興味があった私ですが、スペインのこの時の一体感や感情を出す文化が大好きで、スペインや日本の試合の度に友達と家やバルに集まっては熱心に応援していました。ヨーロッパ杯でレアルマドリードが優勝して半泣きになっていたスペイン人のルームメイトが前に「感情なしに観るサッカーはサッカーじゃない」というようなことを言っていて、それによる問題も確かに多いですが、とにかく感情的で常に人生を楽しもうとする姿勢を常に持っているスペイン人に日本人が学ぶことは多いのではないかなと思います。またこの留学生活を通して沢山の国の留学生と知り合い、国や文化の違いの他ベジタリアン、ホモセクシュアルなど今までそんなに出会う機会のなかった考えや性別を持つ人々と出会い、様々なことを話せたことは多様性の比較的少ない日本で生きてきた私にとってはとても貴重な経験になりました。また面白いと感じたのが同じ時期に来た他の日本人の友達たちの変化で、最初の頃はそれぞれの考え、それぞれの理由をもってスペインに来た私たちが、スペインで経験したことやしてきたことはバラバラだったにも関わらず、似たような価値観を一部共有している、つまりスペインの価値観をそれぞれの方法でみんな自分のものにして変わっていくのを感じることでした。このような変化を感じたのは素直に感情を表現するスペイン人の価値観が、それぞれが心を開くことを助けたのもあると思います。日本に帰っても同じ経験や友人、価値観の一部を共有した彼らとは時間を見つけて集まりたいなと思いました。また不思議なのがとても楽しかった10か月だったにも関わらず、時間を戻したいとは思わないことです。悔いなく充実していたということもありますが、「大切な今を生きる」というのもスペインの大切な考え方で、一度友達になったら繋がりは深く、常に自分の気持ちを大切にするため今も未来も少なくとも自分にとってはいいものだと思信している彼らの人生観が、私が留学後の生活をネガティブにとらえることを阻止しているからだと思います。今私に見えているのは自分が将来、そして今何をしたいか、そのために何をしなければならないか、ということです。お別れは悲しいけれどもみんながもう死んでしまうわけではないし、共有した時間や思い出は私やみんなの中に残って消えることはありません。違うと思ったらまた一からやり直せばいいし、年齢による焦りなども日本にいた時ほど感じません。多少時間はかかっても、この留学で学んだ沢山のことを自分の中でちゃんと消化して、スペインや友達への恋しさもちゃんと抱えたまま、スペインの文化が教えてくれた前を見据えて今を生きる姿勢を大切に、これからの人生を歩んでいきたいです。